



けいせん



2012.1.31

毎週木曜日の13:20~13:30。いつもは子どもたちの元気な声が響き渡る幼稚園がしんと静けさに包まれます。「おはなしのろうそく」の時間です。

♪あかりをつけましょー おはなしのろうそくに そとめをとじて みみを
あませば ほら やってくるよ おとぎのくにゆきの まほうのぼしやが と
うたいながら、ろうそくに火をつけてとくと、もうそこは おはなしの世界です。
子どもたちは 言語る教師をじっとみつめ、その声、表情、声でつくられたその場の
雰囲気全体から 与感を通し おはなしに入りこんでいきます。そこには 余計な
刺激は 何もありません。ですから 子どもたちは 自由に イメージをふくらませる
ことができます。「むかしむかし あるところに、おじいさんと おばあさんがいました」と
教師が言語ると、一人ひとり おじいさんと おばあさんを イメージします。自分の
おじいさん おばあさんを 思い浮かべる子、着物姿、洋服、髪の色... 様々でしょう。
それが テレビだとすると、おじいさん おばあさんの 姿だけでなく、風景なども描かれていて、
その上 鳥がとんでいたり 花が咲いていたり。自分で イメージすることはおはなしは
すんでいきます。与えられた イメージでなく つくり出す イメージを大切にしながら
感性を働かせて おはなしをきくからこそ、その世界に入りこみ 楽しむことができるの
だと 思うのです。

そして 言語る おはなしには、あつたかさがあります。聞き手と語り手との心の
交わりがあります。うれしそうに おはなしをきく子ども、子どもたちのために おはなしを
覚える やさしく言語る大人。どちらも 楽しい時間です。この雰囲気は、目には
見えないけれど 確かにある 安心感。こころまで つまみかいていくのでしょーでしょうか。

最近わが家でくり返し 読んでいる 絵本『ももたろう』(福音館書店)
言読めば 言読まれば、言葉のゆびきやリズム、おはなしを表す絵の 奥深さを感じ
何度読んでも あきません。「ももがたんぶくたんぶくと たがれてきました。」
「ふたつがももを わらうとすると、ももがじやくとわれて、たかからかわいい おとこのこが
はおげあ (はおげあつといつうまれました。」「ーおにがしまめでして、やまへ、たへへへ、
うみへへへ、ゆきがゆきが ゆくとー」 たび ひとつひとつの言葉が美しく、それでいて
力強さも感じられます。絵も同様です。やわらかさ、強さ、静けさ、...
ものがたりをより伝えるものとして、見事に表わされています。特に、おにがしまへ
行く時の 荒々しい海と、戦いを終え戻り時のおだやかな海。同じ海でも
状況や心づきに合わせて 異なる表現がなされています。数ある『ももたろう』の
絵本の中でも ぜひみなさんにも味わってほしい一冊です。

恵泉幼稚園で大切にしている おはなし(素話)・絵本の世界。子どもたちは
毎日 このためにうれしく安心なひと時を 子どもたちと 共有できて幸せです。